



阿部里帆(7)



passport(14)



木村舞衣(9)



磯月の鼠(12)



佐々木千聖(?)



佐々木美優(7)



山田よいとこ好きな町 (22)

(前号より続き)

やがて、チャグチャグ馬っこの一行は豊間根勝山地区の白山様へ。行くほどにこのあたりの馬も加わり一段とにぎやかになる。

白山の神を祭る神社は日本海側に多いが、豊間根には小さいがほかに3社の白山様がある。豊間根の白山様は古くから平泉藤原氏に厚い信仰があるが、かつてこの地域も藤原氏の影響が及んでいたことだろう。

栄華の限りを誇った藤原一族も、やがて義経とともにあたかも夢まぼろしのごとく消え去る。後の世に平泉を訪れた俳人芭蕉は、皆さんご存知のように「夏草や兵どもが夢の跡」と詠み嘆く。まこと、国破れて山河あり、栄枯盛衰世のならいとはいえ、ああ如何この末路を見よ、である。奥六郡の覇者であった安倍氏の子孫豊間根氏の方々は、平泉藤原氏とのきずなや芭蕉の心情を思い、藤原氏滅亡から約400年後の1594年に豊間根の地に白山様を建立して祭られたのかもと、勝手な想像をたくましくしながらこの文章を書いています。

話がそれました。本題に戻りましょう。

こぞって白山様を拝した馬の大集団は、津軽石へとぞろぞろ行く。途中、荷竹あたりの真っすぐな道路に差しかけると、足の速い馬の馬方さんたちは自慢の早足で競馬を始め、互いに競い合う楽しみもあった。やがて終点の藤畑駒形神社(御蒼前様、勝善様とも書く)へ向かう。

蒼前様も馬の神様で、音羽姫の愛馬が祭られている。近江の国(今の滋賀県)で音羽姫に可愛がられた馬が、移り住んだ彼女を慕ってはるばる豊間根まで訪ね来たが、力尽きて亡くなり、それを馬の鈴といっしょに祭った豊間根の「鈴掛け観音」、音羽姫が馬をあわれに思い祭ったのが駒形神社だとの言い伝えもある。このことについて詳しくは宮古市史に記されています。

(つづく)

ペンネーム・山田北州(山田・88)

懐かしい拍子木の音色

子供のころ、雨や風が吹くと「おっかねえなあ」とよくしゃべった。「今夜から夜回り(火の番)が歩くから安堵して眠んにいいよ」と母から言われたことを折に触れ思い出している。

家の前が消防団の屯所で、冬期間は夜回りさんの仮眠所でもあった。毎晩9時と丑三つ(午前2時)の2回、てんぎ(拍子木)の音色がカチ、カチと静寂に心を柔らかく包んでくれた。近所の親御さんたちも夜回りさんをねぎらっていたし、人情が溢れていた。数力月の夜回りが終わると、しばらく夜は心細かった。

屯所前は子供たちの遊び場だったが、今は駐車場に…。しかし温かい思い出は心にいつまでも残り、余生のビタミン剤となっている。

菊地サカエ(織笠・73)

若者の流出に町の将来を懸念

厳しかった寒さもやっと峠を越した感じがして、さすがに春の足音が聞こえてきたと思うと、もう3月。この3月は、ちまたでは「人間の大移動」の時期でもある。卒業や進学、別れや新たな出会いなどがたくさんある反面、それに伴ってどこかの家庭でも財布の中身が気になる時期でもある。

今、雇用の場の厳しさをテレビなどで目にする、いかに就職の窓口の狭さが深刻なのかわたしたちにも分かる。また、年々この時期になると、首都圏へ流れていく若者が多い傾向を見ると、わが町でも人口がいつに2万人を割ってしまったことは、時代の流れとはいえ町の将来が懸念されてならない。自立途上のわが山田町に、より以上の明るさが増すよう切に祈念したい。

齋藤忠雄(船越・83)

◆投稿規定 ▷住所、氏名、年齢、電話番号を明記。ペンネーム、匿名での掲載を希望する方はその旨をさらに付け加えてください▷住所、氏名が記入されていないものは掲載しません▷営利・政治的活動を目的としたものや、特定の個人・団体をひぼう・中傷するものは掲載できません▷投書を添削することがあります。

◆あて先 〒028-1392(住所不要)山田町役場総務課情報管理担当へ。